

市政の



現状は 課題は 今後は

聞きました

一般質問

6月8日から4日間にわたり29人の議員が市政について一般質問を行いました。質問の中から関連した内容を取りまとめ、その要旨を掲載しています。

なお、議員ごとの質問の様子は、市議会ホームページで録画配信をご覧ください。



DX推進

デジタル地域通貨

桑都ペイの取り組みは

問 市は、桑都ペイ事業の検証期間を6年度から8年度までの3年間とし、効果を検証することである。今年度は最終年度となるが、本事業をどのように評価しているのか。

答 桑都ペイは、市内の加盟店で利用される仕組みのため、市内消費の喚起に寄与したほか、ポイント付与により、イベント参加促進などに一定の効果があったと考えている。一方で、その効果が一過性にとどまり、日常的な利用の定着に至っていないことが課題と認識している。

問 ポイントの付与だけでは利便性が低いと考える。市の政策目的に沿った行動を促す政策ツールとして活用するためには、いつでも入金できるチャージ機能が必要ではないか。

答 ポイントの付与だけでは利便性が低いと考える。市の政策目的に沿った行動を促す政策ツールとして活用するためには、いつでも入金できるチャージ機能が必要ではないか。

問 日常的な利用の定着を図る観点から、入金手段の確保は重要と認識している。今年度は、コンビニエンスストアのATMを活用したチャージ機能を試行的に導入し、検証を行いたいと考えている。



答 日常的な利用の定着を図る観点から、入金手段の確保は重要と認識している。今年度は、コンビニエンスストアのATMを活用したチャージ機能を試行的に導入し、検証を行いたいと考えている。

問 市内の大学が、自ら原資を出して桑都ペイのポイントを購入し、付与している事例があると聞いている。地域団体等が行うさまざまな取り組みの中で、自発的に参加者へのポイントを付与してもらえるような動機付けが必要と考えるがどうか。

答 持続可能性の観点から、地域団体等による自発的なポイント付与は大変重要と考えている。桑都ペイの目的や機能に加え、検証データを活用し、ポイント付与が参加者の増加につながるといった効果を、町会・自治会や大学等に丁寧の説明していく。

問 桑都ペイ事業をさらに発展させながら、本市のまち

答 桑都ペイ事業をさらに発展させながら、本市のまち



詳しくは、桑都ペイの専用サイトへ

の活性化に積極的に取り組んでもらいたいと考えるが、今後の方向性は。

答 今後、チャージ機能の導入により利用可能店舗が拡大し、市民の日常生活へ浸透することで、本事業の目的である、地域コミュニティや地域経済の活性化について、今年度中に結果を示せるように取り組んでいく。

検索拡張生成AIの活用推進を

問 8年度から市の業務において検索拡張生成AI※を導入するが、その目的は。

答 職員の情報検索や文書作成等を支援することで、AIを適切に活用し、業務の生産性向上と市民サービスの質の向上を図ることを目的としている。

問 DX推進計画では、「文書生成AIを業務で利用している職員の割合」を9年度に60%を目指すとしている。全国平均30%に比べ、高い目標を掲げているが、どのように取り組むのか。

答 大学等と連携して研修を実施することで、AIを活用できる人材の育成に取り組むとともに、職員が日常的にAIを活用できる環境整備を

問 近年、暑熱環境下における屋外作業時の熱中症リスクが高まる中、国の労働安全衛生規則が改正され、事業者が熱中症対策が義務化された。本市においても、職員を熱中症から守る夏季作業環境管理ガイドラインを6月に改定したが、どのように運用しているのか。

安全衛生

進めることで、組織全体への定着を図っていく。

問 近年、暑熱環境下における屋外作業時の熱中症リスクが高まる中、国の労働安全衛生規則が改正され、事業者が熱中症対策が義務化された。本市においても、職員を熱中症から守る夏季作業環境管理ガイドラインを6月に改定したが、どのように運用しているのか。



答 熱中症対策の強化と予防の徹底が図れるよう、同ガイドラインの全庁的な周知に努めている。運用については、各課において、暑さ指数に応じた業務基準の設定や、非常時における報告・連絡体制の整備、熱中症予防のための休憩、水分補給などの具体的な対策を定め、着実に実施している。

※生成AIに検索機能を組み合わせ、社内データ等を参照しながら回答を生成する技術・仕組み